

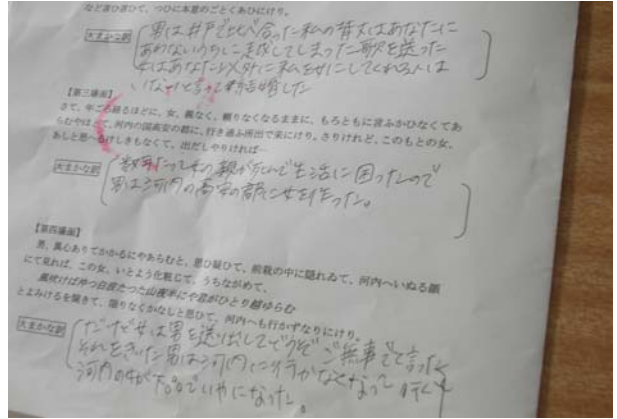
逗葉高校の授業（国語総合）実施報告

『伊勢物語』の二十四段「筒井筒」の現代語訳を終えた後、本文内容の理解の定着を促すための「ドラマ発表会」が開かれました。

説明にあたっては、単に現代語訳に触れるのではなく、自作によるイラストとストーリーにあったBGMの選定・登場人物の配役など、生徒各自の思考・判断・表現のプロセスが表出するスタイルをとりました。



【本時の学習目標・学習活動の提示】



【生徒の手による本文の概要】



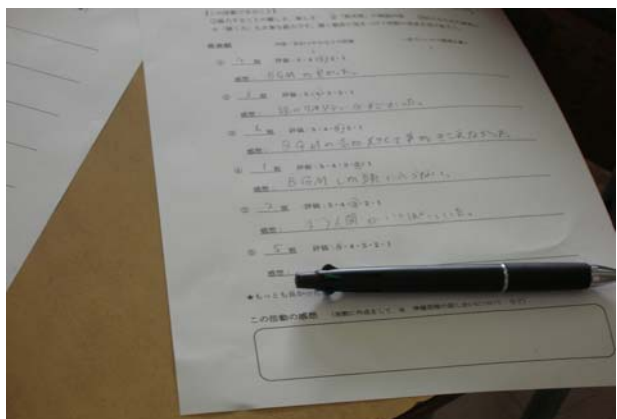
【イラストを投影しながらの発表】



【BGMの選定・操作も生徒の主体的活動】



【プレゼンテーションは相互評価】



【評価用紙の記述の様子】

古典教材の言語活動と言うと、「読むこと」の領域の観点で評価することが想起されます。本単元でも中心は「読むこと」ですが、現代文のジャンルに限定して行なわれるケースが多い「話すこと・聞くこと」の領域の観点でも評価することを試み、この言語活動を通して、生徒の本文内容の理解が一層定着することを意図しました。

併せて、『高等学校学習指導要領解説 国語編』の「話すこと・聞くこと」の指導事項（イ）に、「目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること」があります。今回の取組は「効果的に拘り、「資料や機器を用いながら（分かりやすく）」に力点をおいて、生徒が取り組みやすいような仕掛けを施しました。

授業を終えた生徒からは「いつもと違った授業で古典が身近に感じられた」「グループ活動を通して学習が広がった」「みんながどんなことを考えているかがわかって楽しかった」等のコメントが挙げられました。

逗葉高校では、今求められる力を養成するために、柔軟な学習活動を展開しております。